**市政トピックス**

「自分のまちを自分で守りたい」鹿島台支団で活躍する女性消防団員

大崎消防団鹿島台支団で活動する中居林美紀さんは、市内で5人目、鹿島台地域では初めての女性消防団員です。

　「自分のまちを自分で守りたい」と、今年4月に、自ら志願して鹿島台支団に入団しました。

　7月23日には、防災意識を普及するため、鹿島台笑じフェスの消火体験コーナーを担当。初めての消防団活動ということもあり、自身も手順を確認しながら、子どもたちに消火器の使い方を教えていました。

　これから、一緒に活動する女性団員を増やしていきたいという中居林さん。女性の視点を生かし、熱意と慈愛に満ちた活躍が期待されます。

●大崎市消防団で一緒に活動しましょう!

現在、宮城県内では約450人、大崎市内では5人の女性消防団員が活躍しています。

地域を守りたい、力になりたいという人の入団をお待ちしています。

問合せ 防災安全課消防担当　電話23-5144

写真１：水の出る訓練用の消火器で消火体験。火に見立てた的をめがけて放水します。

写真２：防火服を身にまとう中居林さん。鹿島台支団初の女性消防団員です

「スマホマナー」を見直したい　中学校生徒会サミットで討論

7月27日、鹿島台瑞・華・翠交流施設（鎌田記念ホール）で、市内の中学校11校による第17回おおさき中学校生徒会サミットが開催されました。　今回のサミットは「スマホマナー」をテーマに、参加した計42人の生徒が５つの分科会に分かれて討論しました。

　ホスト校である鹿島台中学校生徒会が、事前に行ったスマートフォンの使用状況に関するアンケート結果を資料として提供。それをたたき台に、生徒からは「文章での会話は、特に言葉づかいに気を付けたい」「時間にメリハリをつけて使いたい」など意見が出ました。

　サミット終盤では、相手を思いやる気持ちや顔を合わせて会話することの重要性が各分科会から発表されました。

　スマートフォンは、いまや一つのコミュニケーションツールとして確立しています。しかし、使い方次第で嫌な思いをしたり、家族の会話が減少したりと、さまざまな問題が発生しています。皆さんも使用方法について、一度立ち止まって見直してみませんか。

写真１：出し合った意見をポストイットに書き、分類分けします

写真２：ホスト校鹿島台中学校の皆さん。息の合った様子でサミットを進行しました

地域発　お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。

おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほのおいしい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント・・・。

そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

**●田尻発　　照りつける太陽の下、白球を追う**

8月7日、第32回かごぼう少年野球大会が行われ、市内外から参加した24の少年野球チームが、4つのブロックで、それぞれに優勝を競い合いました。

　応援席からは、照りつける太陽よりも熱い声援が届けられ、選手たちも、それに応えるようにプレーしていました。

|  |
| --- |
| ブロックごとの大会結果 |
| A | 優勝：蒲町スポーツ少年団野球部（仙台市）2位：沼部イーグルス（田尻地域） |
| B | 優勝：大崎シルバースターズ（古川地域）2位：上野目ファイターズ（岩出山地域） |
| C | 優勝：古川ジャイアンツ（古川地域）2位：古川杉の子パワーズ（古川地域） |
| D | 優勝：鹿島台ロイヤルファイターズ（鹿島台地域）2位：東向陽台スカイラーク（富谷町） |

写真：逆転に次ぐ逆転で、最後まで目が離せない試合が展開されました

**●鹿島台発　歴史を振り返り、未来へとつなぐ**

　8月5日、昭和61年8月豪雨の記憶を伝えようと、水害フォーラム「水害の記憶を未来へ」が、鹿島台瑞・華・翠交流施設（鎌田記念ホール）で開催されました。

　異常気象と防災と題した講演では、講師が「災害から身を守るためには情報を整理する必要がある。普段から、気象庁や市のハザードマップで危険を確認してほしい」と語りかけると、客席では、スマートフォンを取り

出している人がいました。

　いざというときに慌てないよう、自分の身の回りの情報を確認しておきましょう。

写真１：ペットボトルの中で雲を作る実験。見上げて想像しながら作っています

写真２：鎌田記念ホール前に、身長をゆうに超える、当時の到達水位を伝える看板が設置されました

**●三本木発　夏休みに、おおさきの自然を満喫**

　8月8日～10日、神奈川県横浜市港南区の児童が大崎市を訪れ、三本木地域の児童たちと交流しました。

　最初はよそよそしかった児童たちも、一緒にひまわりアイスを食べると緊張がほどけたのか、さっそく打ち解けていました。最終日には、「星空がすごくきれいだった」「沢のぼりで転んだけど、友達が助けてくれた」と、三日間の思い出を発表し、中には「見学した鳴子ダムを自由研究のテーマにします!」と発表してくれた児童もいました。

　この交流事業は隔年で開催地を交換しており、来年は、三本木地域の児童が横浜市港南区の文化を体験します。

写真１：満開のひまわりの前で記念撮影

写真２：三本木の思い出に、ひまわりアイスを写真に収めています